

花巻 歴史探訪

【問い合わせ】本庁文化課(☎23-52600)



国指定文化財(天然記念物)

カズクリ自生地

所在地(東和町石鳩岡)

一般にクリの木は、雄花・雌花が同じ木に咲き、一つの雌花に1～2個の実をつけますが、カズクリの木は、すべての花が雌花という変わった品種。実をつけるには、ほかのクリの木の花粉が必要です。そのため、野生の木としては珍しく、木そのものだけでなく周辺環境もカズクリ自生地として文化財指定されています。

カズクリは、大小さまざまな形のイガが長さ15～24センチ程度に連なり、ブドウの房や稲穂のように見えることが大きな特徴です。このことから、八房栗とも呼ばれています。イガの中に完全な実をつけるものはほんの少し。ほとんどがイガだけです。

以前、長野県小県郡和田峠観音沢にも同じような種類のクリの木がありました。その木は大正時代に枯れてしまい、現在、国内で確認されているカズクリは石鳩岡にある木だけ。カズクリはこの地域でしか見られないとても貴重な珍しい木です。

残念なことに、最初に文化財指定された木は枯れてしまいましたが、その木から接ぎ木された木が現在文化財指定されています。